

水野源三詩集より

水野源三さんは、長野県埴科郡坂城町で、1937年に生まれ、1984年、47才で天に召されました。9才のとき、赤痢の高熱で全身マヒの体となり、言葉を話すことも出来ませんでした。

12才のとき、初めて聖書に触れ、13才で洗礼を受けクリスチャンになりました。母の手助けで、五十音図を瞬(まばた)きで指定する方法で、多くの詩を作りました。(瞬きの詩人とも言われている) 一部英文の翻訳あり。

日本基督教団坂城栄光教会内には水野源三記念コーナー、坂城町田町には詩碑が建立されている。

「苦しまなかつたら」(新聖歌 292 番)

もしも私が苦しまなかつたら

神様の愛を知らなかつた

もしもおおくの兄弟姉妹が苦しまなかつたら

神様の愛は伝えられなかつた

もしも主なるイエス様が苦しまなかつたら

神様の愛はあらわれなかつた

「悲しみよ」

悲しみよ悲しみよ 本当にありがとう

お前が来なかつたら つよくなかつたなら

私は今どうなったか

悲しみよ悲しみよ お前が私を

この世にはない大きな喜びが

かわらない平安がある 主イエス様の

みもとにつれて来てくれたのだ

Sorrow

O Sorrow!

Thank you so much,

O Sorrow!

Had you not come to me,

had you not been so strong,

I wonder how I would be today.

O sorrow!

You took me to the side of Jesus my Lord,

where there are joys not of this world,

where there is peace not to be taken away,

O Sorrow!

「生きる」

神さまの大きな御手の中で

かたつむりは かたつむりらしく歩み

蛍草(ほたるぐさ)は蛍草らしく咲き

雨蛙(あまがえる)は雨蛙らしく鳴き

神さまの大きな御手の中で

私は私らしく生きる

Living

In the great hand of God

the snail

crawls as the snail should

the spider wolf

blooms as the spider wolf should

the green tree frog

croaks as the green tree frog should

And in the great hand of God

I

live as I should

「はっきりと分かりました」

焚火の温かさは 焚火に手をかざした
その時に はっきりと分かりました
焼きいものうまさは 焼きいもを食べた
その時に はっきりと分かりました
キリストの愛は キリストを信じた
その時に はっきりと分かりました

「御言葉」

神様、今日も御言葉を下さい
一つだけで結構です
私の心は小さいですから
沢山いただいても溢れてしまい
もったいないので

「今年も毎朝」

今年も毎朝
母に聖書を
一ページ一ページめくってもらい
父なる御神からの
新しい力
新しい望み
新しい喜びを受ける

「それなのに」

誰も誰も美しい花を愛し親しみ楽しむ
庭にたくさんの花の種をまき
鉢に色とりどりの花を咲かせ
床の間に形よく花をいけ
机の上に花を美しくかざり
高原に咲き乱れる花を見に行き
山奥にかおる花を捜しに行き
それなのになぜ
ほんとの心を求めないのか
美しい愛の心を
それなのになぜ語る
ひとの心を傷つける言葉を

Got It Clearly

At the very moment
when I held my hands out
to the bonfire
I found its warmth clearly
At the very moment
when I ate a roast sweet potato
I found its taste clearly.
At the very moment
when I believed in Christ
I found his love immense.

「黙ろうよ」

朝霧に包まれて草も木も黙っている
自分勝手なおしゃべりをやめて黙ろうよ
そうすれば主の御声が聞こえてくる

「ありがとう」

物が言えない私は
ありがとうのかわりにほほえむ
朝から何回もほほえむ
苦しいときも 悲しいときも
心から ほほえむ

「御心のままに」

この道行きたいと願っても
御心でなければ行かない
御心を成したもう御神よ
御心のままに行かせたまえ
試練を避けたいと願っても
御心でなければ避けられない
御心を成したもう御神よ
御心のままに助けたまえ
どんなに生きたいと願っても
御心でなければ生きられない
御心を成したもう御神よ
御心のままに生かしたまえ

「今日一日も」

新聞のにおいに朝を感じ
冷たい水のうまさに夏を感じ
風鈴の音の涼しさに夕暮れを感じ
かえるの声はっきりして夜を感じ
今日一日も終わりぬ
一つの事一つの事に
神様の恵みと愛を信じて

「心はふしぎな所」

心はふしぎな所
信じるべきを うたがい
愛するべきを 憎み
のぞむべきを 落胆し
喜ぶべきを 悲しみ
心はふしぎな所
いったん主の御手にふれるならば
見たり きいたり
ふれたり しなくても
信じ 愛し のぞみ
喜ぶことができる

「主のいつくしみが」

- 一、主のいつくしみが 主のいつくしみが
深く深く思われる
主の慰めが 主の慰めが
強く強く感じられる
悲しみが 悲しみが 心にみちる時
- 二、主の力が 主の力が
深く深く思われる
主の助けが 主の助けが
強く強く感じられる
苦しみが 苦しみが 増し加わる時
- 三、主の御言葉が 主の御言葉が
深く深く思われる
主の恵みが 主の恵みが
強く強く感じられる
淋しさが 淋しさが 心にみちる時

「どうしてそんなに」

父なる神様に生かされているのに
どうしてそんなに 思いわずらうのか
父なる神様に愛されているのに
どうしてそんなに いつもつぶやくのか
父なる神様にすべてをよきように
なしてくださるから すべてをゆだねよう

「救いの御子の降誕を」

一度も高らかに
クリスマスを楽しむ賛美歌を歌ったことがない
一度も声を出して
クリスマスを祝う
あいさつをしたことがない
一度もカードに
メリークリスマスと
書いたことがない
だけどだけど
雪と風がたたく部屋で
心の中で歌い
自分自身にあいさつをし
まぶたのうらに書き
救いの御子の降誕を
御神に感謝し喜び祝う